

大学間連携共同教育推進事業
「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」
第2回公開シンポジウム 挨拶文

文部科学省高等教育局大学振興課大学改革推進室長
猪股 志野

本日、大学間連携共同教育推進事業シンポジウム「ITを活用した超高齢社会の到来に対応できる歯科医師の養成」の開催にあたり、一言御挨拶申し上げます。

先ずもって、本日のシンポジウム開催にあたり、代表校である昭和大学や連携校の教職員の皆様の日頃の御尽力に敬意を表しますとともに、岩手県歯科医師会や盛岡市歯科医師会をはじめステークホルダーの機関の皆様方におかれましては、日頃より本事業に対して御支援御協力をいただいていることに対しまして、深く感謝申し上げます。

この「大学間連携共同教育推進事業」は、国公立の設置形態を超え、地域や分野に応じて大学・高専間が相互に連携し、社会の要請に応える共同の教育・質保証システムの構築を促進することを目的としたものです。本事業は、平成24年度に開始し本年で4年目を迎えており、現在、全国で計300大学・高専が参画する49プログラムに対し支援しているところです。

昨年行われた中間評価において、本取組は、地元の歯科医師と連携・協働することで実践力を高め、授業開始のプレテスト、終了時のポストテスト、科目ごとのアンケート調査などを通じて、到達評価と質向上を着実に実施している点に加え、習熟度評価や教材改善システムも機能しており、継続・発展の条件が整ってきていることが評価されました。その結果、「A評価：計画どおりの取組であり、現行の努力を継続することによって本事業の目的を達成することが期待できる。」との評価を受けられました。これも、関係者の皆様これまでのご努力の賜物ではないかと思えます。

本事業は、4年目を迎え、補助期間としては残すところ約1年3ヶ月となりました。国からの補助が終了した後も継続して成果をあげていただくため、本日御臨席の連携校の皆様、また連携先の機関の皆様に、3つのお願いがございます。

- ・1点目は連携を継続的かつ実質的なものにしていただきたいということです。本事業は社会から求められる真に効果的な取組みを実施するため、常にステークホルダーとの課題の共有・協働を行うことを連携校に求めています。連携機関の皆様には、率直な御意見を各大学にお寄せいただきたくと共に、これからも継続して出来る限りのお力添えをいただきたいと存じます。
- ・2点目は、補助期間終了後の継続を見据えた取組の強化です。この取組が継続し、将来にわたり持続可能なものとするため、連携校の皆様におかれては、資金確保のための計画づくり、各大学を繋ぐ人材や後継者の育成・確保、教職員に対するFD・SDの実施等を積極的に進めていただくようお願いいたします。

・3点目は、積極的な情報発信です。事業の経過や得られた成果について、地域社会の皆様や全国の大学に積極的に情報発信するようお願いいたします。

なお、近年、補助金の不適切な使用による返還事例が多数発生しています。各校におかれましては、教職員に対し補助金適正化法や各種規程を遵守することを周知徹底していただき、本事業に携わる教職員の方々には、補助金の執行ルールをよく熟知した上で補助金の適切な使用に努めていただきますようよろしくお願いいたします。

最後に、御臨席の皆様におかれましては、今後とも本取組に対して力強い御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、関係各位の一層の御研鑽と御尽力により、この取組が益々の充実・発展を遂げられますことを祈念し、挨拶と致します。